

## 私の好きな言葉

開倫塾

塾長 林 明夫

## 1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

夏休みに入りましたので、今回は、「私の好きな言葉」を紹介させていただきます。

## 2. 私の好きな言葉

- (1) 私は足利市立山辺小学校を卒業したのですが、3・4年生の時のクラス担任の岡典子先生から「小学生も新聞を読むといいよ」という言葉を教えていただきました。岡先生のおかげで、小学生も新聞を読んでよいのだと気付き、少しずつ新聞を読むようになりました。

5・6年生の時のクラス担任でとても元気よかった高田健司先生も新聞を読むとよいと勧めて下さいましたので、それ以来、小学生でありながら新聞を毎日読み、少しずつですが大人の仲間入りをしたような気持ちになりました。

私が新聞を読むようになったのは、山辺小学校の3・4年担任の岡典子先生と5・6年担任の高田健司先生のおかげであると思います。

- (2) 中学校時代で一番印象に残っているのは、足利市立山辺中学校で2・3年生の時のクラス担任であった岡田忠治先生から教えていただいた「ブルドッグ魂」という言葉です。先生にその言葉の意味をお聞きすると、「食いついたら離さない」という意味であると教えて下さいました。何事も一度始めたら途中で投げ出さないで、粘り強く執念を持って臨むことが大事だよということを、岡田先生は教えて下さったのだと思います。とても印象深い言葉で、今でもよく覚えています。

- (3) また、中学校時代に私は柔道部に所属していたのですが、その監督であった椎名弘先生は柔道を教えるのがとても上手でした。先生から教えを受けた中学校は皆、県大会で優勝するというほどでした。椎名先生が教えて下さった言葉は、「練習で泣いて、試合で笑え」です。全くその通りで、厳しくも素晴らしい言葉であると思います。

先程お話したように、椎名先生から柔道を教わると、2年生の栃木県新人戦や3年生の県大会で団体優勝するという成績を残すことができました。おかげさまで私も新人戦・県大会で団体優勝したチームにありました。練習は相当厳しかったですが、先生の「練習で泣いて、試合で笑え」の教えに励まされ、仲間もよく練習したように記憶しています。

椎名先生はまた、「自他共栄」、自分も他人も共に栄えることが大事だという講道館の創設者である嘉納治五郎先生の言葉も教えて下さいました。中学生ながら、なるほどその通りだなと思いました。

(4) そのあと、私は栃木県立足利高校に進学しました。足利高校にはマラソン大会があり、「一所懸命」と書かれた鉢巻をもらいました。「いっしょう」は「一」に「生きる」と書くことが多いですが、鉢巻には古い言い方の「一つの所」とありました。これはおそらく足利高校の先生方が、一つの所で命を懸けるくらい熱心に物事に取り組むことが大事だよということを我々生徒に教えたいと思ったからだと思います。この鉢巻と「一所懸命」の文字も非常に印象深いものでした。

このように、小学校・中学校・高校の在学中にそれぞれの学校でいくつかの好きな言葉に出会うことができました。

(5) 社会に出てから出会った好きな言葉を少し紹介します。私は足利市に住んでいますのでやはり足利市出身の書家相田みつを先生の「一生勉強、一生青春」が一番好きです。相田先生は既にお亡くなりになってしまいましたが、「一生勉強、一生青春」という言葉で、一生懸命勉強し続けると一生懸命青春でいられるよということを教えて下さったのだと思います。

(6) 「教育ある人とは勉強し続ける人」という言葉も好きです。これは、経営学の大家であるピーター・ドラッカー先生の言葉で、先生の著した書籍の中によく出てきます。自分の夢や可能性、よさを伸ばすために、学生時代だけではなく死ぬ前の日までどんなやり方でもよいから自分のやり方で少しずつでもコツコツと勉強をし続けることが、人間の生き方として素晴らしく尊いことであると、私はこの言葉を知って考えました。

(7) 日本にヨガを紹介した中村天風先生からは「いつまでも若々しく生きる」という言葉を教えていただきました。これもよい言葉ですね。私は「人生は105歳だから、35歳まではひたすら勉強、70歳までは仕事や社会活動やよい家庭づくりに励み、70歳から105歳すぎまでは自由自在に自分らしく生きる。このように年齢に関係なくいつまでも若々しく生きることが大事である」と考えます。

(8) ベイトソンという先生は、「自然と精神」という本を著しました。これも私の大好きな言葉です。

### 3. おわりに

皆様にも大切になさっている言葉がいくつかあると思います。時々それらの言葉をノートや日記、手帳に書き出して意味をじっくり考えると、自分自身を見つめ直すよい機会になると思います。夏休みなどはそれをするのに適していますので、自分の好きな言葉をまとめ自分自身をじっくり振り返ることをお勧めします。

- 2009年7月25日 林明夫記 -

「書き抜き読書ノート」もお勧めします。

- 2010年1月11日校正 -